

西多摩医師会報

1982年5月1日

115号

発行所・社団法人 西多摩医師会

東京都青梅市西分3-103 TEL(0428)23-2171(代)

編集委員・栗原 琢磨 佐藤 義弘 斉藤 信幸 塩沢 三朗
菅井 義久 高木 直 堀田 洋夫 道又 正達 村山 正昭

57年度

西多摩医師会

役員職務分掌委員決まる

3月定例総会において、会員多数出席のもとに57年度新役員が選出された。4月に入り、8日、14日の臨時理事会、21日定例理事会とひき続き3回の理事会を経て、57年度西多摩医師会の新しい職務分掌が決まり、各種委員会委員の依嘱任命も進み、西多摩医師会は地域における活動の新たな第一歩を踏み始めたところである。

新体制が確立されつつある事はよろこばしい限

りではあるが、増税、医療福祉はバツサリ切り捨て、軍事費突出天井知らずの大盤振舞、マスコミの無責任な医師悪者論等がそれなりに受け入れられ勝ちな状況の中での医師会活動には、多くの困難が予測される。小異を捨て全会員の一致団結、協力が今程強く要請される時期はあるまい。新執行部の活動に期待したい。

以下に新職務分掌、各種委員を記す。

職務分掌表 (☆部長) (敬称略、順不同)

会長	瀬戸岡 進	学術部	☆塩沢 三朗	佐々木 章	湯川文朗 清水章三郎
副会長	江本 虎雄		足立 卓三	中村 武	大嶽栄二 村山正昭
	西村 邦康		小林 康光	林 実	山口岱三 唐橋善雄
総務部	☆大塚 涉		菅井 義久	広報部	☆堀田 洋夫
	植田 稔	公衆衛生部			塩沢 三朗
	中村 武		☆松原 貞一		菅井 義久
	箱崎 淳		川辺 隆道		高木 直
	堀田 洋夫		林 実	会報編集委員	
経理部	☆中村 武		東 吉男	菅井義久(編集長)	
	大塚 涉	学校医部	☆東 吉男	栗原琢磨 佐藤義弘	
	川辺 隆道		佐々木 章	斉藤信幸 塩沢三朗	
	木野村幸彦		松原 貞一	高木 直 堀田洋夫	
保険部	☆木野村幸彦	産業医部	☆箱崎 淳	道又正達 村山正昭	
	大塚 涉		足立 卓三	福祉部委員	
	小林 康光		高木 直	植田 稔 中村 武	
	東 吉男	福祉部	☆植田 稔	佐々木章 林 実	
					鈴木 修 栗原琢磨
					清水章三郎 菅井義久
					市原 靖 五十嵐
					加藤 出 島田芳明
					村山正昭 塩沢三郎
					久保田 福生病院

(2)

青梅市立総合病院
公衆衛生部委員

松原貞一 川辺隆道
林 実 吉野住雄
秋山静夫 道又正達

保険指導整備委員
(国保)

今里 勉 植田 稔
大塚 渉 唐橋善雄
木野村幸彦 木村 隆
小林康光 佐藤義弘
島田芳明 清水章三郎
鈴木 修 鈴木 丹
滝浦復平 中林敬一

堀内 素 山口岱三
山田 登 箱崎 淳
葉山 侃
(社保)

足立卓三 秋山静夫
今川 武 市原 靖
稲垣壮太郎 加藤 出
栗原琢磨 窪田 勇
齊藤信幸 酒井三千生
高木 直 速水完一
波田野洋夫 平林信隆
福田 佐 道又正達
森 和胤 湯川文朗
東 吉男

西多摩地区医療保険
衛生協議会委員

江本虎雄 西村邦康
大塚 渉 中村 武
植田 稔 松原貞一
堀田洋夫 佐々木章
川辺隆道

医事紛争処理委員会

江本虎雄 西村邦康
大塚 渉 松原貞一
足立卓三 鈴木 修
大嶽栄二 堀内 素
鈴木 穆

救急・休日診療委員会

中村 武 高木 直
石井好明 清水章三郎
楠本春彦 大嶽栄二
菅井義久

ブロック会

東部ブロック長 松原貞一
副 " " 中村 武

西部ブロック長 江本虎雄
副 " " 川辺隆道

南部ブロック長 大塚 渉
副 " " 今川 武

(以下11頁に続く)

西多摩地区における災害時の医療救護計画

(医師会は地域防災計画にどのように参加するか)

社団法人 西多摩医師会

この計画は、昭和56年度西多摩医師会執行部の瀬戸岡会長、前副会長福島大寿(現監事)、及び菅井義久理事、中村武理事、吉野住雄前理事の諸先生方の手でまとめられたものであり、会報114号に掲載を予定していたものであるが、編集及び発行の時間的制約のため、今月号に掲載することになったものである。

「はじめに」

昭和52年7月社団法人西多摩医師会と西多摩地区九市町村は、東京都地域防災計画にもとづいて、災害時の医療救護活動についての協定書ならびに同実施細目(以下協定書)を締結し、これを市町村に提示するものである。但し西多摩医師会としては計画の骨格を定めるに留め、細目については各自治体単位の医師会が、それぞれの実情に照し、定めることとし、巻末に付記した。本計画の立案にあたり、机上の空論的計画に終ることなく、大災害発生の際にも実現性のある計画とすることを基本構想としたが、各自治体単位医師会の医療救護計画は、その意図を察知され、西多摩地区に居住する各医師が、一朝有事の際自分は何を分担す

べきか、その責務を明確にされたことは高く評価されて然るべく思われ、また当西多摩医師会も、立案された傘下各医師会に深く敬意を表するものである。

第一章 地域の特殊性と災害規模

災害時の医療救護活動は、その災害の規模、内容によって異なることは当然であるが、災害発生地域の特殊性を無視することはできない。西多摩地区は人口の密集した市街地から、人口過疎の山村までを包含する広大な面積を有し、しかも限られた医療機関での救護活動が要求される。この点で同じ東京都にあっても、区部ともまた北多摩、南多摩地区とも異なった救護活動とならざるを得ない。即ち大規模な列車事故、ガス爆発事故の如き限局型災害の場合は、西多摩医師会として統一された救護活動をとることができよう。

しかしながら予測される東海地震の如き広域型災害の場合は西多摩全域に及ぶであろう。この場合の災害救護活動は、地域防災計画に従い、各自治体単位で行われ、医療救護活動もその一部となる。従って医師会の医療救護活動の直接の指揮者

は西多摩医師会長であるよりも、むしろ自治体単位医師会の長である方がより現実的であり、望ましい形態であろう。

更に医師会から救護班を派遣するにあたり、限局型災害の場合は外科系医師を選び編成することも可能であるが、広域型災害の場合は医師の専門を問う余裕はない。

以上の観点から本計画の策定にあたり、地域防災計画に盛られていない災害規模による分類の考えかたを採り入れたが、これも西多摩地域の特殊性によるものである。

第二章 自治体への要望事項

自治体によっては既に十分な備えをされている項目もあろうが、西多摩地域全体から見れば、まだ対策不十分と思われる点があるので、以下医師会より自治体への要望事項を列挙する。

1. 広域型災害発生時に救護本部又は救護所設置予定地を明らかにされたい。
2. 救護所設置予定の建物は十分な耐震性をもつものであることを希望する。
3. 水の確保にも考慮を払われたい。
4. 医療資器材の確保、備蓄に留意されたい。
5. 救護班用の衣服、ヘルメット、腕章等の準備。
6. 看護要員の確保に考慮を払われたい。
7. 電話不通の場合の連絡方法について考慮されたい。
8. 傷病者搬送のための車輛の確保。
9. 交通途絶の事態に備え、ヘリポートの設置等十分な考慮を希望する。
10. 受け入れ医療機関の指定と連携。
11. 救護班の出動方法は徒歩、自家用車、公用車、警察いずれの方法によるかは地元医師会と協議されたい。

第三章 限局型災害

1. 指揮統制

協定書に基き、自治体より要請を受けた西多摩医師会長は、市町村医師会長に対し、医療救護班の出動を指令する。

2. 救護班

予め定めた方法により救護所に急行するが、出動医師は最寄りの外科系無床の医療機関の医師が望ましい。

協定書実施細目第1条（医療救護班の緊急活動）によれば、災害状況により緊急を要すると判断し自治体からの要請をまたずに医療救護活動を実施した場合は、（限局型、広域型を問わず）医療救護の初動期において、自治体の要請があったものとみなされる。

3. 医療資器材

救護班は自治体の備蓄する医薬品等を使用する。

救護班が携行した医薬品等を使用した場合は自治体より実費弁償される。

第四章 広域型災害

東京都全域あるいは西多摩全域に被害が及ぶほどの広域型災害にあつては、恐らく交通、通信の機能は麻痺し、市民はパニック状態に陥り、医療機関もその多くが機能を果たし得ないほどの被害を受けているであろう。しかしそのような状況下にあつても、なお医療救護活動は行われなければならないし、それを行うことが社団法人西多摩医師会の責務であり、また一医師、更には一市民としての義務であろう。本計画はその時のための備えであることを強調したい。

1. 指揮統制

- (1) 複雑な指揮、連絡系統は混乱を生じ易いので簡明を旨とする。
- (2) 災害救護全般は自治体単位に行われる。従つて医療救護活動も自治体単位となる。
- (3) 自治体より要請を受けた市町村医師会長は救護班出動を指令する一方で西多摩医師会長に報告する。
- (4) 西多摩医師会長は西多摩地区全体の救護活動を把握し、中央と連絡する。

昭和56年度各市町村医師会の責任者は下記の通り。

青梅市	百瀬 政雄
奥多摩町	川辺 隆道
福生市	西村 邦康
羽村町	坂本 保
瑞穂町	小林 康光
秋川市	大塚 涉
五日市町	今川 武
日の出町	川崎健一郎
檜原村	内田 萬次

(4)

2. 救護班

- (1) 各市町村医師会は、それぞれの実情に合わせて予め救護班を編成する。
- (2) 出動の要請を受けた医師は、自治体および市町村医師会長並びに西多摩医師会長の要請と理解し出動する。
- (3) 出動の手段は市町村医師会と自治体とで協議する。
- (4) 救護班は自治体の指定する救護本部または救護所において医療救護活動にあたる。

昭和56年度における各自治体の指定する救護本部又は救護所は下記の通り。

青梅市……地区市民センター、小学校等
10ヶ所の救護所

奥多摩町……（奥多摩町立病院？未定）

福生市……第三小、第五小、第二中、健康センターの4ヶ所

羽村町……羽村町保健センター

瑞穂町……瑞穂町保健センター

秋川市……秋川市健康会館、西秋留小、東秋留小、多西小

五日市町……町立集会場、町立学校体育館等9ヶ所

日の出町……日の出診療所

檜原村……檜原診療所

3. 医療資器材

医療資器材の備蓄に関して、市町村医師会と自治体とで協議する。

4. 傷病者の搬送

救急車の効率的利用に留意する。

自治体による「臨時救急車」の準備を協議する。

5. 受入れ医療機関

自治体は事前に、管内および隣接市町村にある公立病院、大病院、個人病院と十分な連絡をとられるよう希望する。

第五章 医療救護活動指針

1. 傷病者の分類

傷病者の分類は効率的に多数の患者に最善の医療を行うため、患者の搬送順位を決めたり、治療方針を決めたりするための基本となる。

- (1) 軽症 処置は簡単で入院不要のもの。小挫創、挫傷、打撲、小骨折、10%以下

の第2度熱傷など。

- (2) 中等症 人手や資材が少なくても救命しうるもの。四肢の機能は保持されている外出血や高度挫創など。
- (3) 重症 高度の治療を要するが、開始が遅れても可。大きな骨の骨折、20～40%の第2度熱傷など。
- (4) 重篤 救命困難で、他の救命可能患者を犠牲にする恐れがある。呼吸器、中枢神経系、腹部の重篤な損傷、重症多発損傷、40%以上の熱傷など。

災害時の医療担当側の反応は主として外科、整形外科となるが、偶発せる内科的疾患や眼損傷など特殊な損傷に対しても考慮される必要がある。

2. 医療救護班の業務

- (1) 傷病者に対する応急処置 一人の患者にかかりきりになることは避ける。
- (2) 受傷者の搬送順位の決定 重症度および傷害内容により搬送先を指示する。
- (3) 死亡の確認

第六章 警戒宣言発令時における

医療機関の対応措置

1. 診療体制

- (1) 外来診療 医療機関の状況に応じ、可能な限り平常通り診療を行う。
- (2) 入院患者 退院又は一時帰宅を希望する者には、担当医師の判断により許可を与える。
- (3) 予定手術検査 医師の判断により、日程変更可能な手術、検査は延期する。
- (4) 職員の動員 あらかじめ指定された職員は、警戒宣言の発令時には速かに登院する。

2. 入院外来患者の安全確保

- (1) 患者への情報伝達（不安解消、混乱の妨止に十分留意した方法により）の徹底
- (2) 病室、廊下等の整理

3. 診療体制の整備

- (1) 非常電源の点検 (2) 水の汲みおき等確保
- (3) 医薬品、衛生材料の点検 (4) 医療器具、機械の転倒破損防止 (5) 応急食料の確保、確認
- (6) 応急入院ベッド、寝具の確保、対策

4. 施設、設備の点検

- (1) 建物、付帯設備の点検及び応急措置 (2) 危険物(薬品、放射能機械、物質)の安全管理
(3) 落下物の防止 (4) 消防設備の点検

5. 情報の伝達

正確な情報の把握のために必要な体制を確立する。

「おわりに」

昭和55年4月今期理時会の発足当時より、災害時医療救護体制の準備が協議事項として呈出されていた。その後昭和56年度の都医師会事業計画の最重点項目として、関東、東海地方の大地震発生に備え、災害時医療救護体制の強化が挙げられた事に呼応し、西多摩医師会は理事会内に小委員会を設け、災害西療の研究、計画立案に取り組んだ。

この過程において明らかになったことは、自治体によって地域防災計画の整備に差があり、また市町村医師会の対応策も、既に救護班の編成、ヘルメット、腕章の準備から医薬品の備蓄まで整備された所から、全く手つかずの状態の所までその較差は甚だ大きいことであった。しかしながら本計画が策定されたことにより、市町村医師会の体制整備と自治体の対応策とが一気に進展したことからみて、本計画の意義は極めて大であったと言える。ところが計画は立ててみたものの、現実には災害が発生した際に円滑な救護活動が行えるかどうか一抹の不安は覆い得ない。先頃羽田沖で起きた日航機墜落事故の際の、大森、蒲田両医師会の活躍を思うにつけても、計画を生かすも殺すも、それは会員ひとりひとりの救護要員としての自覚次第であることを強調して、本計画の結びとしたい。

文芸・随筆

晩春雑感

小泉新策

晩春の日射しうつりてうららかな
肌吹く風もさはやけきかな

野も山も嫩葉は繁みて青きなか
真白きはだら山ぼうしかも

春たちて菜種梅雨ともなりしころゆ
冬眠おえし暮ら這ひ出づ

往診の帰るさしばし拾ひ来し
暮ら幾匹我が庭に棲む

山に住み自然に生くも街に住み
たつき求むも道はひとすじ

よそ目には難業苦行に映るとも
おのもおのもはそれで楽しゑ

古ゆ鉞振るい汗流し
たつきいそしむ祖霊尊し

老妻の肩の痛みにヨーガ勧め
唾液ホルモン注射してよし

愚痴多し人皆古りてそこはかと
痛み所多きも世の常と諦らめ

甘き香の匂ひ漂ふ庭隅に
こよなくめでし白藤の花

理事会報告

4月臨時理事会

昭和57年4月8日(木)

PM 7:30 ~

西多摩医師会館

出席 12名

1. 会長挨拶 瀬戸岡会長

2. 役員紹介 全員自己紹介

3. 報告事項

(1) 都医代議員会報告

第170回定時代議員会報告 福島代議員

(2) その他

国保委員会要望書について 瀬戸岡会長

(次回国保委員会5月18日予定)

社保委員会報告 江本副会長

理事会運営について 西村副会長

4. 協議事項

(1) 前執行部よりの申送り事項

1. 職員就業規則作成について

諮問委員会は理事者で構成(賛成多数)

2. 定款施行細則の見直しについて

紛らわしい字句の見直し(全員賛成)

3. 総会開催日1週間繰りあげ(全員賛成)

4. S57年度衛生検査所の精度管理調査

協力医療機関の依頼について

学術部理事にまかせる(了承)

(2) その他

1. 理事会日程について

2. 職務分掌については正副会長一任

(全員賛成)

3. 会費徴収方法(時期)の変更について

従来2期を3期(5/15, 8/15, 12/15)

とする(全員了承)

4. 整備会の日の理事会開催について

当分の間従来通り(全員了解)

5. 入会会費

中野和広, 米山 明(承認)

1. 報告事項

(1) 都医公衆衛生委員会 松原理事

感染予防対策について

(2) 職務分掌の発表

本号別掲の通り(但し1年で変更することあり)

(3) 就業規則委員会委員の発表

税務部委員5名により7月末までに作成する

(4) その他

会長代行(定款第13条2項)に江本副会長(全員了承)

2. 協議事項

(1) 定款施行細則研究会発足

委員長 西村副会長

委員 川辺, 林, 高木, 植田, 箱崎(以上理事)

米山監事の計7名で構成、7月末までに問題点の点検

(2) 各種委員の任命について

・医事紛争処理委員会

・西多摩地区医療保健衛生協議会 } 正副会長

・地域医療委員会

・救急, 休日診療委員会 } 総務部一任

・各部委員は各部の理事で協議

・社保, 国保整備委員、地区より推せん

(5) その他

・5月22日臨床総会までの日程

4月28日(木) 会計監査(7:30 PM 会館)

5月10日(日) 臨時理事会

5月15日(土) 総会資料発送

5月19日(木) 臨事理事会

(議長, 副議長出席)

5月22日(土) 臨時総会 PM 7:30 ~

5月26日(木) 定例理事会休会

以上日程について

全理事了承

・理事会司会は従来通り副会長が行なう

・定款施行細則18条について

緊急理事会の場合必ず目的(議題)日時を

明確にされたい。電話でも可。 了承

4月臨時理事会

昭和57年4月14日(木)

PM 7:30 ~

西多摩医師会館

4 月定例理事会

昭和57年4月21日(木)

PM 7:30 ~

西多摩医師会館

出席 17名

1. 報告事項

- (1) 都医地区医師会長協議会報告 瀬戸岡会長
別掲資料あり
- (2) 各部報告、各部委員選出
学術部、公衆衛生部は次回理事会に報告
保険部 社保整備委員の中に東京都審査委員を入れることについて保険部で検討
- (3) 三多摩庶務連絡会報告 大塚理事
(総務部長)

(4) その他

各部長新年度の抱負について

2. 協議事項

- (1) 医事紛争処理委員会委員人選
別掲の通りとなる (全員賛成)
窓口は従来通り、江本、西村、大塚各理事
- (2) 西多摩地区医療保健衛生協議会委員人選
別掲の通り
- (3) その他
- 東京労働保険医療協会評議員
当医師会から高木直理事がこれにあたる (賛成多数)
 - 57年度園医校医推せん (全員了承)
 - 退会会員 伊勢一郎
 - 入会会員 大河原周 (承認)
(二ヶ所管理)

おしらせ

東京都医師会学術講演会

1. 高令者の腎・尿路疾患

座長 東京医大 勝沼英字先生

昭和57年5月27日(木)

経団連会館14Fホール

(地下鉄大手町駅)

学術映画(18:00~18:15)

「前立腺肥大症とプロステチン」

講演(18:15~20:00)

(1) 腎疾患について

東大医学部 井上剛輔講師

(2) 前立腺肥大症について

聖路加泌尿器科 岡本重禮医長

2. 動脈硬化の新しい考え方

司会 都医理事 寺沢正夫

昭和57年6月17日(木)

京王プラザホテル42F富士の間(新宿)

学術映画(13:30~14:00)

「コエンザイムQ10研究会」

講演(14:00~16:00)

(1) 診断

東邦大医学部 長谷川元治助教授

(2) 治療

杏林大医学部 東野俊夫教授

(3) 質疑応答

3. 新しい降圧剤の基礎と臨床

座長 養育院 村上元孝院長

昭和57年7月17日(木)

全通会館(水道橋駅)

学術映画(13:30~14:00)

「狭心症~その診断と治療」

講演(14:00~16:00)

(1) α, β 受容体遮断薬の基礎と臨床

日大板橋 河村博講師

(2) Ca拮抗薬の基礎と臨床

養育院 上田慶二郎

東大医師会主催 第68回

臨床研究会

日本医師会・東京都医師会後援

日 時 昭和57年5月7日(金)より6月11日(金)迄の間、毎火・金曜日の午後4時～5時30分、6月15日(火)CPC-午後3時より5時、(見学-午後2時～4時)、シリーズ-6月18日(金)より7月13日(火)迄、夏期シリーズ-8月10日(火)より8月24日(火)迄、午後3時～5時。

場 所 東大病院 中央病棟3階セミナール室

入会資格 医師

会 費 講義全会費14,000円(前払)。別に見学1回1,000円。会員外の講義1回3,000円。見学1回3,000円。シリーズI・II・IIIそれぞれ14,000円。1回4,000円。

入会申込 入会申込書に会費を添えてお送りください。やむを得ない場合は、

準備の都合上まずこの申込書をお送りください。会期中でも入会を歓迎いたします。なお見学は希望項目を入会申込書にご記入のうえ予約と同時に会費を納入してください(一旦納入の会費は返金いたしません)。

申込場所 文京区本郷7-3-1 東京大学医学部附属病院竜岡門脇 東大医師会事務局 秋吉宛(電話811-5881) 午前10時より午後3時まで(水・土・日を除く)夜間の申込は秋吉宛0423(25)4125。会費郵送の場合は〒113 文京区本郷7-3-1 東大講内遊便局止 東大医師会 秋吉宛(現金書留または為替のこと)。

第68回 臨床研究会プログラム

月・日(曜)	時 間	場 所	講 義 題 目	講 師
5月7日(金)	4時～5時30分	中央病棟3階 セミナール室	開業医のプライマリー・ ケア パーキンソン病	神内 豊倉康夫 教授
" 11日(火)	"	"	消化器疾患の治療 (その一)胃	1内 丹羽寛文 博士
" 14日(金)	"	研究所玄関	学外 東京都神経科学 総合研究所	研究所 所長 佐藤昌康 博士
" 18日(火)	"	中央病棟3階 セミナール室	肺癌の診断と治療	2外 牛山孝樹 講師
" 21日(金)	"	"	小児科臨床講義	小児 小林 登 教授
" 25日(火)	"	"	正常心電図とは(読み 過ぎを防ぐために)	2内 真島三郎 講師
" 28日(金)	"	"	内科臨床講義	老人 原沢道美 教授
6月8日(火)	"	"	外科 "	小児外 斎藤純夫助教授
" 11日(金)	"	"	主訴による検査のす すめ方 血尿	泌尿器 川辺香月 講師
" 15日(火)	3時～5時	"	CPC 頭痛,発熱,複 視で発症し急速 に死亡した若い 女性の症例	病理 長嶋和郎 講師・他

◎ 見学・講義

月・日(曜)	時 間	場 所	題 目	講 師
5月7日(金)	2時～4時	中央病棟3階 セミナール室	レントゲン読影(小児) 腹部	放射線 荒木 力 博士

5月11日(火)	2時～4時	中央病棟3階 ゼミナール室	染色体検査の実際	山梨医大 保健学	日暮 誠	教授
" 14日(金)	"	研究所玄関	学外 東京都神経科学総 合研究所	研究所 所長	佐藤昌康	博士
" 18日(火)	"	中央病棟3階 ゼミナール室	内科病室廻診	物内	宮本昭正	教授
" 21日(金)	"	"	発疹を伴う小児疾患の診 断と治療	駒込病院 小児科部長	南谷幹夫	博士
" 25日(火)	"	"	レーザー医学の現況と将来	医用電子 研究施設	渥美和彦	教授
" 28日(金)	"	"	患者携帯用心電計の使い 方とその価値	関東通信 病院	村山正博	博士
6月8日(火)	"	"	パージャ-病の診断と治療	東京医科 歯科大 附属病院	三島好雄	教授
" 11日(金)	"	"	皮膚科病室廻診	皮膚	久木田淳	教授

<シリーズ>

会 費 1シリーズ(4回) 14,000円

場 所 東大病院中央病棟3階ゼミナール室

時 間 午後3時～5時

定 員 各25名

I. 神経疾患

6月18日(金)

神経内科

" 25日(金)

7月9日(金)

" 16日(金)

II. 慢性呼吸器疾患の診断と治療

6月22日(火) サルコイドーシス

中検 白石 透 講師

" 29日(火) 慢性間質性閉塞性肺疾患

老人 福地義之助 講師

7月6日(火) 気管支ぜんそく

物内 宮本 昭正 教授

" 13日(火) びまん性間質性肺炎・肺線維症

3内 北村 諭 講師

III. 内科・小児科医に必要な精神疾患の診断と治療

8月10日(火)

精神神経 佐藤 倚男 教授・他

" 17日(火)

" 24日(火)

申し込み用紙は西多摩医師会にあります。御連絡下さい。(0428-23-2171)

医師会日誌

医療機関数 146 病院 23
診療所 123
会 員 数 237 A会員 134
B " 103

会 議

4月8日 臨時理事会
14日 "
21日 理事会
22日 医道審議委員会

いのでKaup でやってゆこうとか予診の重要性など数々の問題点を話し合いました。

レポート 道又

西部ブロックより

4月26日青梅市医師会総会が開かれ、江本虎雄先生が新会長に選出されました。西部ブロック長も兼任されます。青梅市医師会副会長は土田先生、西部ブロック副ブロック長は川辺先生にきまりました。

南部ブロックより

南部ブロック長は大塚渉先生、副は今川先生ときまりました。幹事は桂木、葉山、清水三先生。

おしらせ

計量機の検査について

下記の日程で計量機の定期検査が行われます。是非お受け下さい。但し光電式、電気抵抗線式及び所在場所定期検査を除きます。

午前10時から午後3時まで(沢井、成木は10時～12時。梅郷、小曾木は午後1時～3時)。

昭和57年5月7日 青梅市大門市民センター
 // 月10日 // 沢井 // //
 // 月 // 日 // 梅郷 // //
 // 月11日 // 成木 // //
 // 月 // 日 // 小曾木 // //

昭和57年5月12日 青梅市長淵市民センター
 // 月13日 // 青梅市民会館
 // 月14日 // 青梅市役所
 // 月17日 // //
 // 月18日 秋川市東秋留農業協同組合
 // 月19日 // 西秋留 // //
 // 月20日 // 多西 // //
 // 月21日 福生市福生市役所
 // 月24日 // //
 // 月25日 // //

(2頁より続く)

公衆衛生部委員会

松原貞一 東 吉男
 林 実 川辺隆道
 秋山静夫 道又正達
 吉野住雄

学術部委員会

塩沢三朗 菅井義久
 小林康光 足立卓三
 窪田 勇 島田芳明
 村山正昭 市原 靖
 五十嵐敬晃 加藤 出
 清水章三郎 栗原琢磨

鈴木 修 大久保憲二

大島大和

地域医療委員会

植田 稔 箱崎 淳
 清水章三郎 山口岱三
 吉野住雄

社保委員 木野村幸彦

整備委員会委員長 同上

// 副 // 東 吉男

// 副 // 高木 直

国保委員 大塚 渉

整備委員会連絡会委員 同上

整備委員会委員長 同上

整備委員会副委員長

小林康光

// //

植田 稔

産業医部委員会

基礎実態調査完了後発足する予定です。

あ と が き

4月から5月にかけてのゴールデンウィークも終り、ようやく初夏のきざしが見えて来ました。西多摩医師会の諸役員、委員がきまりましたので冒頭に掲載致しました。会報をサッパリ、見やすくかつ、会活動のポイントをはずさないようにと、色々無い頭をしぼっておりますがなかなかうまく行きません。会員の皆さんのお智恵を拝借できれば幸いです。(堀田)

赤血球の変形能を高め、 脳微小循環での血流を改善する。

脳微小循環への新しいアプローチ。

7.5 μ \leq 3.0 μ 直径7.5 μ の赤血球は、
直径3.0 μ の毛細血管を自ら変形し
ながら通過します。この赤血球の
変形能を高め、脳微小循環
の血流を改善するトレンタール。
容れ物(血管)ではなく中身
(血液)に着眼したヘキストの、
新しい治療概念をもつ
微小循環改善剤です。



微小循環改善剤<ペントキシフィリン>

トレンタール錠

健保適用



ヘキストジャパン株式会社
医薬品事業部

東京都港区赤坂8-10-16 〒107・TEL(479)5111(大代)

●詳しい用法・用量、その他の注意などは、現品添付文書(能書)をご参照ください。

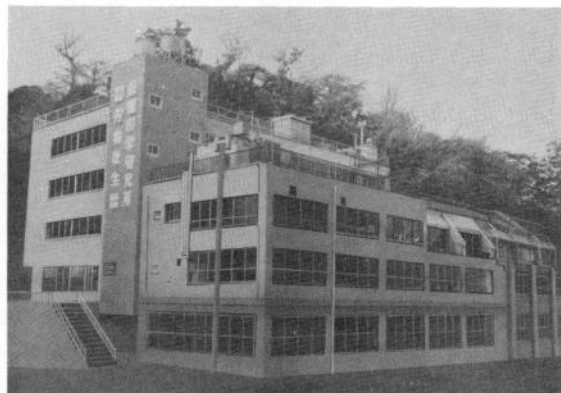
臨床検査センターの雄 保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町106

電話 045 (333) 1661 (大代表)

八王子市子安町3-17

電話 0426 (26) 2203・2204



- 総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
- 完全オンラインシステム化を実現致しました。(データー通信システム)
- 関係医療機関 約 3,500ヶ所
- 広範囲な検査内容
 - 内分生物学検査●免疫学検査●ウイルス検査●生化学検査●血清学検査●血液学検査
 - 病理組織検査●細胞診検査●重金属検査●水質検査

1 都11県の御得意先を毎日定期的集配致します。御一報を御待ち致しています。